

はにわ通信

No.271 平成 29 (2017) 年 10 月号



【日本最古級の土偶が発見された「粥見井尻遺跡」】



写真1 粥見井尻遺跡出土 土偶(三重県指定有形文化財) 三重県埋蔵文化財センター提供

みなさん、粥見井尻遺跡(飯南町粥見・三重県指定史跡)をご存知ですか? 粥見井尻遺跡は、縄文時代の遺跡で、そこから出土した土偶(写真1)によって、全国的に名前が知られるようになりました。なぜ全国的に名前が知られるようになったかという、その土偶が、見つかった時点で、日本最古(1)のものだったからです。

縄文時代は今から約1万3000年前にはじまり(2)、1万年以上続きました。江戸時代が約270年間、平安時代が約400年間であることと比べると、非常に長い期間、縄文時代が続いたことが分かります。そして、この長い縄文時代は、上の年表のように、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分されています。

粥見井尻遺跡は、この6期の中で最も古い草創期の遺跡です。遺跡からは、4棟の竪穴住居跡が発見されましたが、草創期の住居跡が発見されるのは全国的に見ても数が少なく、とても重要な発見であったといえます。

竪穴住居は、柱穴の跡から考えると、壁際から中央に向かって柱を立て、そこに草などをかけて屋根にしたテント状の住居だったのではないかと考えられています。

そして、写真1の日本最古級の土偶は、その中の1棟の竪穴住居内から発見されました。大きさは全長6.8cm、最大幅4.2cmで、女性の握りこぶしくらいです。粘土のかたまりから両腕の部分小さくつまみ出し、頭部と乳房は別の粘土を貼りつけて表現しています。下半身・顔の表現や装飾も無く、とても簡素な作りをしています。土偶は、女性や母性を象徴してつくられたものとも、超自然の精霊を形にしたものともいわれています。はるか昔、粥見の地に住んだ縄文人はどのような想いをこの小さな土偶に込めたのでしょうか?



写真2 粥見井尻遺跡公園

現在、粥見井尻遺跡は、竪穴住居が2棟復元され、史跡公園になっています(写真2)。茶畑の中にある粥見井尻遺跡で約1万年前にそこに住んだ縄文人に想いを馳せてみるのもいいかもしれません。(担当)

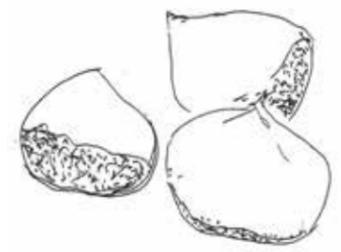
(1) 2010年に滋賀県の相谷熊原遺跡でも縄文時代草創期の土偶が出土しました。これにより、日本最古級となりました。
 (2) 縄文時代のはじまり・終わりの時期については諸説あります。
 ※今回ののはにわ通信を書く際、『粥見井尻遺跡』(三重県埋蔵文化財センター・斎宮歴史博物館、1997年)と『三重県埋蔵文化財調査報告156 粥見井尻遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1997年)を参考にしました。

【はにわ館特別展「土偶と生活(くらし)」を開催します!】

当文化財センターは、10月28日(土)から12月3日(日)まで、松阪市文化財センター開館20周年記念はにわ館特別展「土偶と生活(くらし)」を開催します。「土偶と生活(くらし)」展では、今回紹介した粥見井尻遺跡出土の土偶のほか、松阪市、三重県、そして青森県の土偶を中心に展示します。様々な土偶を見ることが出来る貴重な機会だと思います。ぜひ、「土偶と生活(くらし)」展へお越しください。お待ちしております。(担当)

【山の恵み……】

秋半ば、実りの季節も盛りとなり、なにかしら心穏やかではられない。これも食べたい、あれも食べたい……。この時期は何を食べてもおいしく、つい食べてしまう。今は食べることにそれなりに充足を感じることができる。世はグルメの時代、〇〇グルメ…がやたら目につく。その一方、世界には飢餓に苦しむ人たちが多数いるのも事実。



マズロー(1)の欲求階層の中で、最下層は生理的欲求、次に安全の欲求だとされる。生理的欲求の中でも、食欲は根っここの部分で、適切に満たされてこそ、生きようと意欲的になれる。そして、低次の欲求が充足し、より高次の欲求の実現にチャレンジしようとする。さらに、自己実現へと向かうという。食べ物が十分に得られないことが続くと、たちまち死に直面し、明日への希望すら持てない。

狩猟採集の時代、日々の食べものは季節や気候に大きく左右された。秋は、山野での採集物も多く、人々は待ちかねただろう。例えば、木の実。中でもクリは栄養も豊富で、甘くうまい。今のように大きくはない小粒の山栗である。命を繋ぐのに必死だったときにあって、これらの山の恵みは貴重で、心を和ませるものだったろう。(所長)

(1) アメリカの心理学者。人間の欲求を5段階の階層で理論化した。

文化財センター はにわ館 & ギャラリー 10月の催し物予定

10月の休館日は2(月)、10(火)、23日(月)、30(月)です。
 開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」
 第2展示室 ■開館20周年記念はにわ館特別展「土偶と生活(くらし)」10/28(土)~12/3(日)
 「ミュージアムトーク」10/28(土) 13:30~14:30
 第3G ■特別展講演会「土偶の始まり・土偶の現在」11/4(土) 13:30~15:00

【ギャラリー】 入場無料 *最終日は16:00まで

第1・2・3G ■第58回 松阪市美術展覧会(第2部) 10/14(土)~10/22(日) 9:00~17:00 ※最終日は15時まで
 第1・2・3G ■茶道裏千家淡交会東海地区大会特別展「松坂と茶の湯」10/27(金)~10/28(土) 9:00~17:00

【今後のイベント】

第2G ★ワークショップ「古代組ひもづくり・土偶ストラップづくり」
 11/4(土) 10:00~15:30 ※予約不要、参加費100円

バーコード読み取り
(文化財センター情報)